

(11/20 木曜)

9条改憲・「緊急事態」の危険

岸田政権は、総選挙で改憲勢力が3分の2以上を占めたことを受け、改憲策動を強めています。改憲勢力が狙うのは、「緊急事態」の危険性であります。

(中野侃)



埼玉大准教授(憲法学)
中川 律さん

自民党などの改憲勢力が主張する憲法改定に非常に

内閣に権力を集中 軍事力拡大狙う

警戒をしています。岸田文雄首相は、「党は、ある憲法改正に向かって積極的に取り組んでいく」と述べていますが、なぜ改憲をする必要があるのかを具体的に示さないまま、改憲ありきで議論を進めようとしています。自民党も「憲法改正推進本部」を改組し、「憲法改正実現本部」とするなど体制整備で改憲の雰囲気を醸成しています。

一方で、自民党が掲げている「改憲4項目」も、なぜ必要なのが不明確です。特に4条をめぐっては、安倍政権下で、集団的自衛権を一部容認する強引な憲法解釈の変遷まで行つてきました。日本が戦争を「戦争を二度と繰り返さない」とする国際の想いと共に鳴っていました。日本が戦争の発端を憲法に押し付けることは許されません。

この地位を確立する上でも、9条があることで「軍事に頼らない」ということが一つの指標になってきました。軍事に頼らぬ平和を築くという努力を今後も続けていくためにも、やはり9条は變えてはいけません。

てあります。それでもなお改憲しようとする理由はなんですか。

それは、国民が想像する以上に自衛隊の軍事力を強化し、日本の軍事的な活動を広げることに他なりません。端的に言って非常に危険です。

憲法の条項は、日本が明治時代において破滅的で無謀な戦争に突き進んでしまった歴史への反省のもと

憲法下において破滅的で無謀な戦争に突き進んでしまった歴史への反省のもと

染症対策については、法律を整備することに対応すべきであり、憲法は問題ではありません。現政権や過去の政権が十分に準備をしてこなかつたことの「つけ」

ナホに乘じた憲法改憲に対する「戦争を二度と繰り返さない」とする国際の想いと共に鳴っていました。日本が戦争を憲法に押し付けることは評価されるべきです。

今回の総選挙では、野党4党と市民連合が共通政策で合意し、さらに候補者の調整まで行きながら選挙戦に臨みました。共通政策では、「憲法に基づいて政治の回復」を柱に、安保法制の違憲部分廢止となることで「コロ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、あおさまに活動を広げるのに他なりません。端的に言って非常に危険です。

憲法の条項は、日本が明治時代において破滅的で無謀な戦争に突き進んでしまった歴史への反省のもと

染症対策については、法律を整備することに対応すべきであり、憲法は問題ではありません。現政権や過去の政権が十分に準備をしてこなかつたことの「つけ」

ナホに乘じた憲法改憲に対する「戦争を二度と繰り返さない」とする国際の想いと共に鳴っていました。日本が戦争を憲法に押し付けることは評価されるべきです。

また、野党共闘は成果に結びつかなかったという議論がありますが、野党共闘は選挙を政権選択選挙として機能させるために今後も必要だと思います。

また、緊急事態条項は権限を含め内閣に権力を集中するものです。内閣への法律上の統制が利かず非常に危険です。

憲法の研究者として、与党が主張する改憲の危険性を章の根から地道に伝えていきたいと思います。